

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人

国分寺市にふるさとをつくる会

1. プロジェクト名

自然林保全活動指導者育成事業

2. プロジェクトの目的とその背景

武蔵野の面影が残る野川源流の森・通称エックス山は、生物多様性の宝庫であり、昔からの子どもたちの自然にふれ合う遊び場でした。この森を行政及び地権者の了承のもとに『子どものための森の自然塾』を月4回実施しています。だが、『東京都の安全・安心まちづくり条例』等に基づき、森の伐採・下川によって、希少種や貴重なものが消え、子どもの遊び場が縮小しています。また、野川の下流は涸れます。これを憂い、自然再生推進法第4条に基づき、『野川源流自然再生協議会』設立に向けて、『自然林保全の価値』を学び、自然再生をめざします。そのために『自然林保全活動指導者づくり』が目的です。

3. プロジェクトの内容

- (1) 法律『自然再生推進法』に基づく手順を総務省等から指導を受け内容については、法人会員が主体となって分担化（手分け）し活動します。
- (2) 活動を担当する法人会員は、『自然林保全活動指導者』をめざし、養成講座で学びます。
- (3) その講座内容は、「自然林と人」「自然林と植物観察」「自然林と昆虫生態」「自然再生と行政関係」「自然林の理念」「自然林と野鳥」「自然林と安全」7項目を学びました。
- (4) 学ぶための講師は、各分野の専門家を招きました。北村蓉子医学博士、剣持雅信自然観察研究者、立川周二農学博士、源原重行植物観察教授、穴澤剛行自然体験活動推進協議会委員、藤森隆郎元農林省・農学博士、小林幸之助ボーイスカウト日本連盟事務局次長をお招きしました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果

- (1) 自然林保全活動指導者めざし法人仲間等を勧誘し、「人材づくり」を行いましたが、受講者の継続性がありませんでした。その対策として、受講後は近くのファミリーレストランで語り合うことで「人間関係」の構築を図ってきました。
- (2) 今回の企画は、各新聞社に協力を要請したが、不掲載と厳しい状況が続きました。その対策として、会員570名が加入する本会の定款は、「・・・自然林を保全し、子孫に伝える」ことにあります。受講者の確保は、同志である会員方々に会報等で再々の呼びかけで、増員を図りました。
- (3) 受講者と共に行政と「自然再生」の協議の実施も並行して行いました。が、行政側は、暗に「年配者の方々だ」と指摘されます。だが現実の街は、共働きや、働く高齢者が非常に多い時代です。行政側との協議する普段の日に参加できる方々は、高齢者の時代であり、街の活動者もそれらの方々に構成されています。故に同志たちは、「高齢者とは80歳以上」と定義づけ認識を変えていきます。

5. 全体的所感、終了しての感想など

- (1) 自然林保全活動指導者づくりは、「武蔵野の僅かに残る希少なものを子孫に残す」「命の尊厳を子どもたちと学ぶには、森の大木に生命の大切な教材である」「毎年ほど涸れる野川の水源涵養林の確保は、自然林の構築が必要」「ヒートアイランド現象防止対策には自然林に価値」等々の知見的に説得力ある指導者づくりに継続性が必要と考えています。
- (2) 「自然林づくり」は大事であることに認識を高め、仲間づくりも逐次進みましたが、次に指導者として「知識を活かしていくこと」を学ぶ必要が強く感じてまいりました。

6. 参考資料

別紙「市民活動公募助成事業活動報告書

○参考資料あり ・ 特になし

